
もう一人の英雄

千

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もう一人の英雄

【Nコード】

N0820BA

【作者名】

千

【あらすじ】

主人公の黒鉄爽児はある日遊戯王GXの世界に転生する。そこで様々な仲間と出会い、遊城十代とともに後に英雄と語り継がれる決闘者に成長していく。初投稿です。文才0の駄作者ですがよろしく願います

VSクロノス(前書き)

はじめまして千です

記念すべき第一話はクロノス教諭との決闘

それではお楽しみ下さい

V S クロノス

「爽快〜早く寝なさい〜」

1階からおふくろの声が聞こえてくる。

特にすることもないので明日に備えて寝るとするか。

やあ俺は黒鉄爽児くろがねそうじ、転生者だ。

まあ神様（笑）のミスで死んでお詫びとして転生させてもらったっていういつものパターンだ。

それで俺がどこに転生したかつて？

それは・・・

「受験番号1番、デュエル場が上がってください」

そう、俺は遊戯王GXの世界に転生したのだ。

何でGXの世界を選んだかは遊戯王シリーズで最も面白かったからだ。

全話見たので原作知識はばっちりだし正直俺はシンクロあまり好きじゃないし・・・

ま、いいか。えーと俺の相手は・・・

「これから実技試験を始めるノ〜ネ」

まさかのクロノス教諭。つーかこの人の顔間近で見ると面白すぎる。

「お願いします」

「「決闘」」

「先攻は私なノ〜ネ、ドロ〜」ニヤリ

「私は天使の施しを発動するノ〜ネ。このカードの効果によって私はカードを3枚ドロ〜し、手札からカードを2枚墓地に送るの〜ネ。私は墓地にトロイホースと古代の機械兵士を墓地に送るノ〜ネ」

外野が「クロノス教諭が手札事故？」とか騒ぎ出す。そうか、この世界はまだ墓地アドがそれほど重要視されてなかったのか。

「私は早すぎた埋葬を発動するノ〜ネ。ライフを800ポイント払うこと〜で墓地にいるモンスター1体を特殊召喚しこのカードを装備するノ〜ネ。私はトロイホースを召喚。」

クロノスのフィールドに木製の馬が出現する。

トロイホース ATK1600

「トロイホースは地属性モンスターの生贄に使用する場合2体分の生贄とすることができるノ〜ネ。私はトロイホースを生贄に古代の機械巨人を生贄召喚するノ〜ネ」

トロイホースが光に包まれて消えると同時に巨大なモンスターがフィールドに出てくる。

古代の機械巨人 ATK3000

「これで私はターンエンドなノ〜ネ。」

外野が「終わったな。」とかうるさいが現世では攻撃力3000のモンスターが1ターン目で出てくるのは全然珍しくない。けど特殊召喚できない古代の機械巨人を1ターンで出すのはちょっとすごい

かな。

「さすがクロノス教諭、すごいな。」

「余裕ぶつても無駄なノ〜ネ。サレンダーするなら今のうちなノ〜ネ」

「誰がサレンダーなんてするか。俺のターン、ドロー」

俺は自分の手札を見る。よし、これならいける。

「俺はバイス・ドラゴンを手札から特殊召喚する。このモンスターは相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合に攻撃力と守備力を半分にして手札から特殊召喚できる。そして俺はアックス・ドラゴニートを召喚する。」

バイス・ドラゴン ATK1000

アックス・ドラゴニート ATK2000

爽児のフィールドに2体の竜が並ぶ。

「そして俺は魔法カードドラゴニック・タクティクスを発動。自分フィールド上のドラゴン族モンスター2体を生贄にデッキからレベル8のドラゴン族モンスターを特殊召喚する。来い、ダークエンド・ドラゴン!!!」

2体の竜がフィールドから消え、漆黒の竜がフィールドに舞い降りる。

ダークエンド・ドラゴン ATK2600

「ふん、その程度のモンスターじゃ私の古代の機械巨人の足元にも及ばないノ〜ネ」

「それはどうかな。ダークエンドの効果発動。ダーク・イヴァポレーション!!!」

爽児が合図した途端、古代の機械巨人が闇の中に吸い込まれていく。

「一体どうなってるノーネ!!!?」

「ダークエンドは1ターンに1度攻撃力を500ポイント下げることとで相手のモンスター1体を墓地に送ることができる!!!」

「ナンデス〜トオ〜!?!?」

「そしてもう先生のフィールドにモンスターはいない。ダークエンドでダイレクトアタック、ダーク・フォッグ!!!」

「パルメザンチ〜ズ!!!」

クロノスLP4000 1900

「さらに俺は速攻魔法表裏一体を発動!俺の場のダークエンド・ドラゴンをデッキに戻し、デッキからライトエンド・ドラゴンを特殊召喚する!!!」

ライトエンド・ドラゴン ATK2600

「ライトエンドで先生にダイレクトアタック！シャイニングサブリメイション！！！」

「マンマミミア」

クロノスLP19000

「よっしゃあ」

「この私が負けるなどありえないノ〜ネ。」

「すげえあのクロノス教諭に勝った」「それもワンターンキルだぞ」「ライフが1も減ってないのに」「外野が騒ぎ出す。それもそうだろう。デュエルアカデミアの実技最高責任者のクロノス相手にワンターンキルの快拳を成し遂げたのだから。」

「むかつくけどさすがに不合格にするわけにはいけないノ〜ネ。だけれど文句をつけてドロップアウト寮に入れてやるノ〜ネ。ぐふふふ」

クロノスが卑劣な考えをしている間に1人の男性が拍手をしながら爽児達に近づいてきた。そしてクロノスの顔つきが変わった。

「校長!?!」

「最上級モンスターに立ち向かう勇氣に冷静な判断、大変すばらしいデュエルでした。よって君はもちろん合格です。爽児君はオベリスク・ブルーに配属します。」

「まじっすか。やった〜!!」

「ぐぬぬぬぬ」

そうしてこの長い1日は終わった。

〈余談〉

そのあとクロノスは爽児に負けたイライラを他の受験生にぶつけ容赦なく30人近くの受験生を不合格にしていたが調子に乗って十代と決闘して負けることになった。

V S クロノス（後書き）

第一話どうでしたか？

他の転生物でよく見る

トロイホース 二重召喚 古代の機械巨人

をちょっと工夫してみました。が正直どっちでもいいですね。

次回は爽児が十代とデュエルする話を書きたいと思います。

さようなら～by千～

VS十代（前編）（前書き）

こんにちは千です。

前に予告したとおり今回は十代とのデュエルを書きます。
それではどうぞ

V S 十代（前編）

「ガツチャ！楽しいデュエルだったぜ、先生！！」

出番が最初だっただけに爽児は観客席でいろんなデュエルをみていた。

あの状況であのチートじみたドロ―はすごいな。クロノスが俺に負けたときよりいららしてる。

「まあ面白いものが見れたな」

そう思っただけで帰ろうとしたら

「おいそのあんた」

声が聞こえる方向に振り向くと十代、翔、三沢がこっちに向かって走ってきていた。

「呼んでるのは俺か受験番号110番？」

「ああ、俺は遊城十代」

「僕は丸藤翔っス」

「俺は三沢大地だ。君のデュエルは見させてもらった。」

「そうか。俺は黒鉄爽児だ。」

「聞いたぜ。お前あのクロノス先生に1キルしたんだろ？なあ俺と

デュエルしようぜ」

遅かれ早かれこうなるとは思っていたけどまさか今日あっていきなりとはな。

まあ断る理由もないしいいか。

「いいぜ。俺もお前のHEROデッキを見てみたいしな。」

そういうと二人はデュエルディスクを構えた。

「決闘」

爽児LP4000

十代LP4000

「先攻は貰うぜ。俺のターン、ドロー!!!」

いつも思っただけど先攻後攻って早いもの勝ちで決めるのか？

先攻とれるように練習でもしよっかなあ

ま、いいや集中。

「俺はE・HEROバブルマンを守備表示で召喚するぜ」

E・HEROバブルマンDEF 1200（アニメ効果）

でたよ強欲な泡男。

「俺はバブルマンの効果を発動する。フィールド上に他のカードがない場合にこのモンスターの召喚に成功した場合、デッキからカー

ドを2枚ドローする。」

OCGじゃまったく使えないのにアニメだったらほぼ強欲な壺じゃねーか。しかもこの世界だったら表側守備表示で召喚できるからなおさらチートだな。

「俺は手札から融合を発動。フィールドのバブルマンと手札のE・HEROクレイマンを融合！来い、E・HEROマッドボールマンを召喚！！」

E・HEROマッドボールマンDEF 3000

十代のフィールドの球体の戦士が腕を組んで現われる。かの青眼の白龍すら破壊できないまさに鉄壁のモンスターだ。

「俺はカードを2枚伏せ、ターンエンドだ」

「俺のターン、ドロー！俺は手札断殺を発動。お互いのプレイヤーは手札を2枚墓地に送りカードを2枚ドローする。」

爽児と十代はカードを捨て、その枚数分ドローする。

「いきなり手札事故つすかね？」と翔

「いや、爽児のことだ。何か考えがあるはずだ。」と三沢

「俺はバイス・ドラゴンを攻守を半分にして手札から特殊召喚する。そしてバイスドラゴンを生贄にストロング・ウィンド・ドラゴンを召喚する！」

ストロング・ウィンド・ドラゴン ATK 2400

バイス・ドラゴンが消えて突風が吹き、新たな龍が爽児の場に現われる。

「このモンスターは生贄にささげたモンスターの攻撃力の半分の数値を自身の攻撃力に加算する。」

ストロング・ウィンド・ドラゴン 2400 3400

「マッドボールマンを上回ったッス」

「バトル！ストロング・ウィンド・ドラゴンでE・HEROマッドボールマンを攻撃！ストロングハリケーン！！！」

ストロング・ウィンド・ドラゴンが繰り出した竜巻がマッドボールマンもろとも十代を襲う。

「そしてこのモンスターが相手の守備表示モンスターを戦闘によって破壊したとき攻撃力と守備力の差分の戦闘ダメージ与える。」

「うわぁ！」

十代 LP 4000 3600

「カードを2枚セットしターンエンドだ。」

「へへへ、楽しいぜ爽児。このデュエルすげえ楽しいよ。」

十代が笑顔で爽児に話しかけてきた。

「ああ、俺も楽しいぜ。」

爽児も笑顔で答える。

「こんな楽しいデュエルに負けるわけには行かないな。俺のターン、ドロー……！」

その場にいる全員にそのドローは輝いて見えた。

V S 十代（前編）（後書き）

自分の文才のなさに絶望です。まじで。

それにしてもバブルマンは鬼畜ですね。フィールドにカードがなかったらすぐ2枚ドロウなうえアニメでは表側守備表示でだせますからね。

今回は十代との決着を書くつもりです。

それでは千でした。さようなら

V S 十代（後編）（前書き）

こんにちは千です。

今回は十代とのデュエル決着です。

どうぞお楽しみ下さい

V S 十代（後編）

「俺のターン、ドロー」

十代

LP 3600

手札 3枚

魔法・罾 2枚セット

モンスター なし

爽児

LP 4000

手札 1枚

魔法・罾 2枚セット

モンスター ストロング・ウィンド・ドラゴン ATK 3400

「俺は魔法カード命削りの宝札を発動。カードを5枚ドローし、5ターン後に手札を全て墓地に送る。」

「さらに融合回収を発動。墓地の融合と融合素材として墓地に送られたクレイマンを手札に加える。そして俺は手札に加えた融合を発動するぜ！俺は手札のE・HEROクレイマンとE・HEROスパークマンを融合する。来い、E・HEROサンダー・ジャイアント！！！！」

E・HEROサンダージャイアント ATK 2400

「俺は魔法カードH・ヒートハートを発動。サンダー・ジャイアントの攻撃力を500ポイントアップさせ、貫通効果を与えるぜ」

E・HEROサンダー・ジャイアントATK 2400 2900

「けどストロング・ウィンド・ドラゴンの攻撃力は3400。攻撃力がまだ足りないッス。」

あつ、そうか。確かサンダー・ジャイアントの初登場はあの偽ラブレター事件だからこいつの効果を知らないのか。

「ああ、確かに攻撃力じゃサンダー・ジャイアントは敵わない。だけど俺はサンダー・ジャイアントの効果を発動！元々の攻撃力がこのモンスターの攻撃力以下のモンスター1体を破壊する。ヴェイパー・スパークー！」

サンダー・ジャイアントが放った雷撃がストロング・ウィンド・ドラゴンを直撃し、破壊する。

「ぐっ・・・」

「そうか、アニメのサンダー・ジャイアントの効果は手札コストなしの強制効果だったな」

「これで爽児、お前の場にモンスターはいない。サンダー・ジャイアントでダイレクトアタック！ボルティック・サンダー！！！」

サンダー・ジャイアントが放った雷が爽児を襲

わなかった。

「残念だったな十代。俺は畏カードガード・ブロックを発動した。俺が受ける戦闘ダメージを0にしてカードを1枚ドロウする。」

「うまい、これで攻撃力の上がったサンダー・ジャイアントの攻撃を防ぎつつアドバンテージを稼いだぞ。」と三沢

「くっそー。通ったと思ったのにな。俺はターンを終了する。」

「俺のターン、ドロウ」

「俺は墓地のミンゲイドラゴンの効果を発動する。」

「墓地からだっ。いつの間に！」

「忘れたのか十代、1ターン目に俺は手札断殺でこのカードを墓地に送つといたんだ。そしてこのモンスターは自分フィールド上にモンスターが存在せず、自分の墓地のモンスターがドラゴン族だけだった場合スタンバイフェイズ時に墓地から特殊召喚できる。だがこの効果で特殊召喚したミンゲイドラゴンはフィールドから離れた場合ゲームから除外されるがな。」

ミンゲイドラゴンDEF 200

翼を広げた首の長い小型の竜が爽児のフィールドに現われる。

「このモンスターはドラゴン族モンスターの生贄とする場合2体分の生贄とすることができる。俺はミンゲイドラゴンを生贄にダーク

エンド・ドラゴンを召喚する！」

ダークエンド・ドラゴン ATK 2600

「ダークエンドの効果を発動！サンダー・ジャイアントは墓地で眠ってもらう。ダーク・イヴァポレイション！」

ダークエンド・ドラゴン ATK 2600 2100

「よし、ダークエンドでダイレクトアタック、ダーク・フォ「させるかよ、俺は罠カードヒーロー見参を発動するぜ。相手モンスターの攻撃宣言時、相手は手札を1枚選ぶ。そのカードがモンスターだった場合そのモンスターを特殊召喚できる。さあ選べ爽児」・・・俺は一番右のカードを選ぶ。」

爽児が指定したカードは・・・

「よっしゃあ、俺はE・HEROエッジマンを特殊召喚するぜ！」

十代のフィールドに黄金の戦士が現われる。

「クソッ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロ。バトル、エッジマンでダークエンド・ドラゴンを攻撃、パワーエッジアタック！」

「俺は罠カードドラゴン・エヴォリューションを発動。フィールドのドラゴン族モンスターを生贄にささげ、そのモンスターのレベル+1のレベルを持つモンスターを手札から特殊召喚する。来いライトエンド・ドラゴン！」

ライトエンド・ドラゴン ATK 2600

「エッジマンと互角か……。だけど俺は攻撃を続ける、パワーエッジアタック！」

「甘い、俺はライトエンドの効果を発動する！このモンスターの攻撃力を500ポイント下げることによって相手モンスターの攻撃力を1500ポイント下げる！ライト・イクスパンション！」

ライトエンドドラゴン ATK 2600 2100

E・HEROエッジマン ATK 2600 1100

ライトエンド・ドラゴンが放った光線がエッジマンに直撃しエッジマンを弱体化させた。

「うっ！！」

「向かい打て、シャイニングサプリメイション！」

「うわっ！！」

十代

LP 3600 2600

「カードを1枚セットし、E・HEROフェザーマンを守備表示で召喚しターンエンドだ。」

E・HEROフェザーマン DEF 1000

「俺のターン、ドロー。」

「俺は攻撃の無力化をセットした。このターンは凌いでみせる。」

「俺は墓地のミンゲイドラゴンの効果を発動!!」

「えっ、ミンゲイドラゴンはさっき除外されたんじゃないんすか？」

「翔、誰も俺の墓地にいるミンゲイドラゴンが1体だけなんていてないぞ。」

「まさか手札断殺で2枚のミンゲイドラゴンを墓地に・・・」

「その通りだ三沢、来い、ミンゲイドラゴン！」

ミンゲイドラゴンDEF 200

「俺も命削りの宝札を発動し、カードを5枚ドロウする。十代、このデュエル俺の勝ちだ。速攻魔法カード竜の魔眼発動。自分フィールド上のドラゴン族モンスターの数だけ相手の魔法・罠カードを破壊する。」

十代の伏せた攻撃の無力化とアナザー・フュージョンが破壊される。

「そして俺はミンゲイドラゴンを生贄にささげ、俺の最強の切り札、光と闇の竜を召喚する!!」

光と闇の竜 ATK 2800

ミンゲイドラゴンが消えると同時に直視できないほどの眩しく美しい竜がフィールドに舞い降りる。

「すげえ、すげえよ爽児！こんなモンスターを召喚するなんて、お前本当に最高だぜ！」

「ああ、このデュエルはとても楽しかった。が、俺の勝ちだ。ライトエンドでフェザーマンを攻撃、シャイニングサプリーメイション！」

「グツ！」

「これで終わりだ。光と闇の竜でダイレクトアタック、シャイニングブレス！！！！」

十代

26000

こうして二人のデュエルは爽児の勝利で終わった。

V S 十代（後編）（後書き）

はい、結局爽児の勝ちで終わりました。十代ファンの皆さんゴメンね。

今更ですがライトエンド・ドラゴンとダークエンド・ドラゴンは漫画GXと同じものだと考えてください。あとドラゴン・エヴォリューションや竜の魔眼等漫画カードもバンバン使っていくので、「あれ、こんなカードあったっけ」みたいなことがあったら未OCGカードWikiで調べてください。作者は基本そこから選んでいます。

あとお気に入り登録して下さった方々本当にありがとうございます。質問、アドバイス等もあつたら遠慮なく言ってください。

次はデュエルアカデミア入学と万丈目に絡まれる話を書きます。

それではさようなら

VSオベリスクのバカAとBとC（前書き）

こんにちは千です。

まずお気に入り登録してくれた方々ありがとうございました。
これからも頑張ります。

あと今回から『今回の最強カード』の企画を始めます。
暇な人は最後に乗ってるからぜひ見てください。

それではお楽しみ下さい

VSオベリスクのバカAとBとC

「光と闇の竜の攻撃、シャイニングブレス!!!」

「うわああああ」

十代 LP 2600 0

十代のライフが0になった瞬間お互いのソリッドヴィジョンが消える。

「くっそー負けちまったか。」

「惜しかったな。俺がもし竜の魔眼を引かなかったらお前はこのターンは生き延びたかも知れないのにな。」

「ああ、けどすっげえ楽しかったぜ。もう一回やろっぜ!」

このデュエル馬鹿は・・・

「待ってくれ、俺ともデュエルしてくれないか？」

「ば、僕もやりたいッス。」

「悪いな、けど今日は疲れた。アカデミアにいたらまたやろっぜ。」

「本当か？約束だぞ。」

「ああ、俺は約束は絶対守るからな。楽しみにしてるぜ。」

こうして爽児と十代の初対決は爽児の勝ちで終わった。

それから数週間後、アカデミアから正式に合格通知が届いた。勿論俺は合格してて、校長先生の言ってた通りオベリスク・ブルーに所属することになった。

「じゃあいつてらっしやい爽児。お母さんは船着場まで送ってあげられないけどいつもお家で爽児のこと応援してるからね。がんばってらっしやい。」

母親から温かい言葉を貰って俺は家をあとにした。

そのあとは面倒だから省略する。爽児は人生ではじめて船に乗って、酔って死にそうになり、アカデミアに着いたら校長の長い話を聞かされるといった感じだ。

「それではこれで入学式は終わりだ。生徒は各々が指定された寮に行き、先生の指示に従って荷物を置くこと。尚7時から新入生歓迎パーティを開催するので遅れないように。解散。」

「すげえ。広すぎだろこの部屋。」

現在爽児はオベリスク・ブルー寮の一室、爽児の部屋、にいる。まるで高級ホテルのような部屋には最新型のパソコンやでかいテレ

び、ふかふかのベッドがあった。
部屋を一通り見たあと爽児は荷物を置いてベッドで寝転がっていた。
すると

ピピピピ

「おっPDAが鳴ってる。」

PDAとはアカデミアの生徒に支給される携帯電話のようなもので、生徒間の通話やメールは勿論、先生からの連絡や辞書、カードの資料、学園内の地図などがある優れた機械だ。

「FROM先生」

7時の新入生歓迎会まであと20分なので遅れないように。
場所はオベリスク・ブルー寮のホール。

尚新入生との交流を深めるためにデュエル大会をやるので各自デッキを持参するように。

以上。」

「あと20分か……。どうせ早く行っても暇だろうからちょっと外の空気を吸ってくるか。」

こんな感じで爽児は外に出て……………

早速絡まれるのであった。出たサンダー+その取り巻き……

「貴様が黒鉄爽児か。まぐれとは言えどもあのクロノス教諭を1キルしたデュエリストは。」

わざわざ「まぐれ」の部分を強調するあたりが腹立つな。

「そつだがお前は誰だ？」

「おおと失礼。俺の名前は万丈目準だ。俺様が貴様に声をかけた理由はひとつ。俺達と一緒にこの学園をよりよい学園にする計画の協力者とならないか？」

どうせろくでもない計画なんだろうけど一応聞いてみるか。

「へえ、面白そうだな。一体どんな計画だ？」

「良くぞ聞いてくれた。デュエルアカデミアには3つの階級が存在する。我らが選ばれしエリートブルー、デュエルの腕も勉強も中途半端なイエロー、あらゆるものに落ちこぼれているレッドの3つだ。なぜ我らがエリートがこんなドロップアウト共と学園生活を送らなければならないのだ。そこで考えた。邪魔者は排除すればいいだけだ。エリートではないレッドやイエローを学校から追い出し、この学校をエリートの学園にすればいいのだ。どうだ、黒鉄爽児、お前もこの計画の協力者となら」

「断る。・・・何だと？」

「断るって言ったんだ。確かにイエローやレッドはブルーに比べて劣っているものがあるかもしれない。だからって学園から排除する？寝言は寝てから言え馬鹿野郎。」

「何だと」

「てめえ」

「言わせておけば」

「うるせえよ。それにお前が落ちこぼれだというレッドやイエローに俺が知ってる中で一人ずつお前らなんか瞬殺するデュエリストを俺は知ってるぞ。」

「「「あんだとお」「」」

「待てお前ら。聞いてみようか、お前がそこまで言う落ちこぼれのことを。」

「イエローの三沢大地にレッドの遊城十代だ。おつ噂をすれば。おーい、十代！」

偶然そこには道に迷った十代と翔がいた。

「おー爽児。助かった。あのさレッド寮への行き方教えてくんねえか？」

「ふん、こんな道も分からないような奴が俺達を瞬殺だと？笑わせろ。レッド寮はここから南に真っ直ぐ行って灯台が見えたら右折すればすぐ見える。」

地味に道案内した。もしかしてこいつ意外といい奴なのか？

「おお、サンキュー。じゃあな爽児。約束覚えてるよな。」

「ああ、勿論だ。」

「……ちょっと待てえええええ！」

「うお、どうした万丈目」

「万丈目『さん』だ。おい遊城十代。貴様今ここで俺様とデュエルしろ。貴様らにエリートと落ちこぼれの格の違いを見せつけたやる。」

「デュエルはいつでも大歓迎だぜ」

「「決闘」そこまでよ」「」

声が出た森の方向を向くとそこに明日香がいた。

「へすげえ美人だな。だけどこいついつから居たんだけ？」

「黒鉄君あなた今私の影が薄いつて思ったでしょ。」

「へ何で分かったんだ？」

「凶星のようね」

「天上院君、今この落ちこぼれにデュエルアカデミアの厳しさを叩き込んでやるところだったんだ。邪魔しないでくれるかな。」

「あなた達デュエルするのはいいけど新入生歓迎会まであと5分よ。」

「やべえ、じゃあな万丈目、爽児。行くぞ翔！」

「僕台詞1つもなかったツス」

あつ翔居たんだけ。

「万丈目『さん』だ！！俺らも行くぞ。」

「『はい、万丈目さん』」

「ありがとな、えーと・・・」

一応初対面なので知らない振りをする。

「天上院明日香よ。明日香って呼んで頂戴。」

「分かった。じゃ俺も爽児って呼んでくれ。苗字で呼ばれると違和感がある。けど何で明日香は俺のこと知ってるんだ？」

なんでだろう。普通に質問しただけのにため息つかれた。

「あなたがどれだけ目立ってるか知らないの？あのクロノス教諭をキルして、その日に同じくクロノス教諭に勝った遊城十代にノーダメージで勝利して、それにその容姿・・・」

俺って人気なんだな。最後のはよく分かんないけど。

「とりあえず万丈目君には気をつけたほうがいいわよ。彼は自分がエリートだって豪語してるけど、口だけではないからね。デュエルの腕もすごいし、あの万丈目グループの三男だしね。」

明日香って情報通なんだな。

「ありがとう、気をつけておくよ。」

こんな感じで時間をつぶし、新入生歓迎パーティーには滑り込みセーフでさらに目立ってしまった。デュエル大会では勿論優勝したぜ。だけどたくさんの生徒（主に女子）からメアド聞かれたのは俺が教諭をキルしたから？

「あー疲れた・・・」

ただいま俺はベッドの上でぐったりしてる。パーティーの最中もあともしんな人（主に女子）に絡まれだるかった。だけどこのベッドはまじいいな。このまま深い眠りに・・・

ピピピピピ

落ちなかった。

何だこんな時間に・・・

「FROM 万丈目準

今夜の12時にお互いのベストカードをかけたアンティルールのデュエルをやる。」

お前が絶賛してたレッドの落ちこぼれにも同じメールを送った。勇気があるのならアカデミアのデュエル場に来い。」

はあ仕方ねえ行くとするか。

俺は転生して原作に関わるかどうか考えてたがせつかく転生したんだからすることにしたぜ。

俺がデュエル場に着いたらそこに万丈目、その取り巻き、十代と明日香がいた。

「来たか黒鉄爽児。俺は遊城十代を潰すが、お前も暇だろう。こいつらと遊んでろ。適当に一人選んでデュエルしとけ。」

「面倒くせえな。一人じゃなくて三人まとめてかかってこいよ。三人もいれば俺のライフを1ぐらい減らせるんじゃないのか？」

挑発しすぎたかな？

「てめえ、調子に乗りやがって」

「上等だ、やってやるよ」

「万丈目さん、デュエル場を使いますよ。」

うお、マジギレした。

「いいだろう、お前ら速攻で終わらせるよ。」

「ああ、速攻で終わらせてやるよ。俺に瞬殺されるって意味でな。」

「いいの、爽児？一応彼らもブルーの中でも成績上位の生徒達よ。」

「余裕だつてこんな奴ら」

そうして4人はデュエル場へ上がった。

「「「「決闘」」」」

爽児 LP 4000

オベリスクのバカA LP 4000

オベリスクのバカB LP 4000

オベリスクのバカC LP 4000

「ルールを確認する。順番は俺 A B Cで1ターン目は誰も攻撃できない。ライフは全員4000だ。いいな。」

「「誰がA、B、Cだ」俺のターン、ドロー」「」「」

3人の声を遮るようにわざと大声でドローする爽児。

「俺はミンゲイドラゴンを守備表示で召喚。カードを4枚セットしターンエンドだ。」

ミンゲイドラゴン DEF 200

「俺のターン、ドロー。俺は切り込み隊長を召喚する。このモンスターは召喚に成功したとき、手札からレベル4以下のモンスター1体を特殊召喚。俺は2体目の切り込み隊長を召喚！」

切り込み隊長 ATK 1200 x2

「このモンスターがフィールド上に存在する限り相手は表側表示で存在するほかの戦士族モンスターを攻撃対象にできない。つまり、お前は俺に攻撃できない。ターンエンドだ。」

ただの切り込みロックじゃねえか。そんな得意げに言うんじゃないよ。

「俺のターン、ドロー。俺は二重召喚を発動。俺はこのターン2回通常召喚が行える。俺はマシユマロンと魂を削る死霊を守備表示で召喚。ターンエンドだ。」

マシユマロン DEF 500

魂を削る死霊 DEF 200

おい、普通こういうのは裏守備でセットだろうが。

「俺のターン、俺はゴブリン突撃部隊を召喚「畏カード激流葬を発動。モンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚されたときに発動でき、フィールド上の全てのモンスターを破壊する。」

「くそつ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、この瞬間ミンゲイドラゴンを蘇生する。」

ミンゲイドラゴン DEF 200

「このモンスターはドラゴン族モンスターの生贄召喚に使用する場合2体分の生贄とすることができる。俺はミンゲイドラゴンを生贄にライトエンド・ドラゴンを召喚。」

ライトエンド・ドラゴン ATK 2600

「ライトエンドでAにダイレクト、シャイニングサプリメイション
!!!」

「うっ」

オベリスクのバカA LP 4000 1400

「速攻魔法表裏一体を発動。フィールドのライトエンドをデッキに
戻し、ダークエンドを特殊召喚する。」

ダークエンド・ドラゴン ATK 2600

「ダークエンドでAにダイレクト、ダーク・フォッグ!!」

「だからAじゃねえ」

オベリスクのバカA LP 1400 0

「俺は伏せカード破壊輪を発動。フィールド上のモンスターを破壊
し、そのモンスターの攻撃力分のダメージを全てのプレイヤーは受
ける。さらにチェーン発動、地獄の扉越し銃。自分が受けるダメー
ジを相手に与える。俺が選択するのはB。」

「うそだあ」

オベリスクのバカB LP 4000 0

「うわああ」

オベリスクのバカC LP 4000 1400

「まだ俺のバトルフェイズは終わってない。俺はリビングゲットの呼び声を発動。墓地のダークエンドを蘇生する。」

ダークエンド・ドラゴン ATK 2600

「ダークエンドでCに攻撃、ダーク・フォッグ!!」

「俺何もしてね〜」

オベリスクのバカC LP 1400 0

「すごい、1ターン3キル・・・」

「さすが爽児、すげえ。」

「ちっ、使えん屑共が・・・」

3人は爽児の前でがたがたに震えてる。あとで万丈目に叱られることは確実な上にアンティで負けたのだからベストカードを渡さなければならぬからだ。

「アンティのことだが・・・」

3人は半ば諦めている。

「さらば俺のギルフォード・・・」

「俺のメフィストがあ〜」

「くそ、ガーゼットだけは許してくれー」

「……いらぬ。別にてめえらのカードが欲しくて来たわけじゃないからな。」

爽児がこういうと3人の顔に光が満ちた。

「さすがね、爽児。」

「おお明日香か。あの程度朝飯前だつて。」

「爽児次は俺とやろうぜ。」

「貴様の相手はこの俺様だあ!!!」

「俺はもう帰る。明日香あとでデュエルの結果教えてくれ。じゃあな」

初の原作ブレイクはこんな風に終わった。余談だが明日香から聞いた話によると十代と万丈目のデュエルは原作どおりガードマンに中断されるも結果十代の勝ち逃げっぽくなったとき。

V S オベリスクのバカAとBとC (後書き)

『今回の最強カード』は……………

破壊輪

……………1回目の最強カードが禁止カードって
まあいいや。まずは破壊輪の効果から見てみましょう

通常罠(禁止カード)

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を破壊し、
お互いにその攻撃力分のダメージを受ける。

(遊戯王カードwikiより)

このカードが凶悪な理由はフリーチェーン、つまり発動タイミング
が自由なこと。そして相手モンスターが破壊できることです。バー
ン効果も見逃せるものではなく実質直接攻撃を食らうようなもので
す。

昔は

デビル・フランケン 青眼の究極竜 破壊輪 地獄の扉越し銃で1
キルが行われてました。カードプールが豊富な今制限復帰はないで
しょう。ちなみに破壊指輪とかいう後釜もあります。この小説では
遊戯王gxの禁止・制限リストに則っているので破壊輪はOKです。

読者の皆様に質問ですがこの小説では遊戯王gx時代のように「生
贄」「生贄召喚」と表現しますが「リリース」「アドバンス召喚」
等に言い換えたほうがいいでしょうか？あと小説1回分は長すぎま
すか？短すぎますか？指摘がなかったらこのままにしますがご意見、

感想、アドバイス等があったら遠慮なく言ってください。

長くなりましたがさようなら。

V S 明日香&楓（前編）（前書き）

こんにちは千です。

今回は遂に今作品のヒロインが登場します。

頑張って書きますが過度な期待はしないで下さい。

それではごっご。

VS 明日香&楓（前編）

ピピピピピ

「何だこんな時間にメール？」

「マルフジシヨウハアズカッテイル。カエシテホシクバ、ユウキジ
ユウダイトトモニシヨシリョウマデコラレタシ」

ああそういえば偽ラブレター事件は今日だったな。

ピピピピピ

「今度はなんだ？」

「FROM 遊城十代

爽児大変だ！翔が攫われた！今から俺は女子寮に行くけどどうする
？」

「仕方ないなあ、行ってやるか」

そうして俺は十代と落ち合って、小船に乗って女子寮に向かった。

「アニキ、爽児君」

女子寮に着いたら案の定縄で縛られてる翔と明日香、枕田、浜口と
知らない顔が一人いた。

「きゃ、黒鉄様もいますわ。」

「近くで見るとかつこよさが一層際立ちますわね」

なんか騒がしいな。ま、一応知ってるけど聞いてみるか。

「翔、お前何したんだ・・・」

「それが、話せば長くなるようなならないような・・・」

「こいつが女子寮の風呂を覗いたのよ」

やっぱり

「翔、お前の気持ちは分からなくてもないがこの世の中にはやっていいことと悪いことがあってだな・・・」

「だから僕は覗いてないッス」

「このことが学校にはれたら退学は確実ね。そこで提案なんだけど私達とデュエルしない？あなた達が勝ったらこのことは水に流してあげるわ。私達が勝ったら丸藤君は退学、二人もただじゃすまないわ」

う、地味に俺らも巻き添え食うのかよ・・・

「デュエルなら大歓迎だぜ」

さすが十代、即答だな。

「折角2人いるんだしタッグデュエルにしましょう。私と楓対あな

た達二人。どう?」

「ふえ、私?」

楓が自分を指差す。

「いいじゃない、あなたも爽児とデュエルしてみたいでしょ?」

「う、うん。」

俺とデュエルしたいってのは嬉しいが何でわざわざ頬を赤くするんだ?

「最初のターンは誰も攻撃できない。順番は私 十代 楓 爽児でいいわね。」

「おう」

「それじゃあ」「」「」「決闘」「」「」

明日香&楓ペア LP 4000

十代&爽児ペア LP 4000

「先攻は私、ドロー。私はエトワール・サイバーを攻撃表示で召喚。」

エトワール・サイバー ATK 1200

「カードを2枚セットしてターン終了よ。」

「俺のターン、ドロ。俺は魔法カード融合を発動！E・HEROバーストレディとフェザーマンを融合する。来いE・HEROフレイングマン！！」

E・HEROフレイングマン ATK 2100

「カードを1枚セット、ターンエンドだ。」

「私のターン、ドロ。」

さあお手並み拝見といこうか。

「私はフィールド魔法、魔法都市エンディミオンを発動します。」

周りに神秘的な建物が立ち並ぶ。

「手札からサイクロンを発動します。あの伏せカードを破壊！」

十代が伏せたヒーローバリアが破壊される。

「さらに魔法カードが発動されたことにより魔法都市エンディミオンに魔力カウンターがのります。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 0 1

「私は魔法カード魔力掌握を発動します。フィールドの魔力カウンターがのせることのできるカードに魔力カウンターを1個のせ、デッキから新たな魔力掌握をサーチします。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 1 3

「私は手札からブラック・コアを発動します。手札の魔力掌握を墓地に送りE・HEROフレイムウィングマンをゲームから除外します。そして魔力カウンターがのります。」

突如現われた黒い球体がフレイムウィングマンが襲う。

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 3 4

「私はおろかな埋葬を発動。デッキから神聖魔導王エンディミオンを墓地に送ります。そして魔法都市エンディミオンに新たな魔力カウンターがのります。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 4 5

「最後に私は強欲な壺を発動。カードを2枚ドロ。くどいようですが魔力カウンターがのります。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 5 6

「墓地の神聖魔導王エンディミオンの効果を発動。魔法都市エンディミオンにのってる魔力カウンターを6つ取り除くことでこのモンスターは手札および墓地から特殊召喚できます。来てエンディミオン！」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 6 0

神聖魔導王エンディミオン ATK 2700

「この効果でエンディミオンの特殊召喚に成功したとき墓地の魔法カードを1枚手札に加えます。私は強欲な壺を選択。そして発動、カードを2枚ドロ。このとき魔法都市エンディミオンの魔力カウンターがのります。カードを2枚セットしてターンエンドです。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 0 1

「すげえな1ターンでエンディミオンを召喚するとはな。俺も負けたらんねえな。俺のターン、ドロ。俺は天使の施しを発動する。カードを3枚ドロし2枚捨てる。」

「そのとき魔法都市エンディミオンに魔力カウンターがのります。」
魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 1 2

「俺は手札からバイス・ドラゴンを攻守を半分にして特殊召喚。」
バイス・ドラゴン DEF 1200

「そしておれはバイス・ドラゴンを生贄にストロング・ウィンド・ドラゴンを召喚する。このモンスターは生贄にささげたドラゴン族モンスターの攻撃力の半分を得る。」

ストロング・ウィンド・ドラゴン ATK 3400

「カードを2枚セットしてターンエンドだ。」

「私のターン、ドロ。私は魔法カード融合を発動。フィールドのエトワール・サイバーと手札のブレード・スケーターを融合。サイバー・ブレイダーを融合召喚。」

サイバー・ブレイダー ATK 2100

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 2 3

「相手フィールド上にモンスターが1体しか存在しない場合このモンスターは戦闘で破壊されない。私はフュージョンウェポンを装備。サイバー・ブレイダーの攻撃力を1500ポイントアップする。」

サイバー・ブレイダー ATK 2100 3600

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 3 4

そういえばアニメではサイバー・ブレイダーはレベル6だったな。

「バトル！！サイバー・ブレイダーでストロング・ウィンド・ドラゴンを攻撃、グリッサード・スラッシュユ！！」

「俺は畏れカードくず鉄のかかしを発動。相手モンスターの攻撃を無効にし、発動後再びこのカードをセットする。」

「くっ、ターンエンドよ。」

「俺のターン、ドロ。俺は融合回収を発動。墓地の融合とフェザーマンを手札に加える。そして融合を発動する。俺はE・HEROスパークマン、フェザーマン、バブルマンを融合するぜ。融合召喚！！現われるE・HEROテンペスター！！」

E・HEROテンペスター ATK 2800

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 4 6

「行けテンペスター、神聖魔導王エンディミオンを攻撃だ。カオステンペスト！！」

「畏カード魔法の筒を発動します。相手モンスターの攻撃を無効にしそのモンスターの攻撃力分のダメージを相手に与えます。」

「うわああ」

十代&爽児ペア LP4000 1200

「ターンエンド。」

「私のターン、ドロ。私は魔導騎士ディフェンダーを守備表示で召喚します。」

魔導騎士ディフェンダー DEF 2000

「このモンスターの召喚に成功したときこのモンスターに魔力カウンターをのせます。」

魔導騎士ディフェンダー

魔力カウンター 0 1

「私は神聖魔導王エンディミオンの効果を発動。1ターンに1度手札から魔法カードを墓地に送ることでフィールド上のカードを1枚破壊します。私は ブラックホールを墓地に送り、くず鉄のかかしを破壊します。」

「俺はテンペスターの効果を発動。くず鉄のかかしを墓地に送り、このモンスターはこのターン戦闘では破壊されなくなる。」

「くつ、私は明日香さんのサイバー・ブレイダーでE・HERO テンペスターを攻撃します。グリッサード・スラッシュュ！」

「テンペスターは戦闘で破壊されない。」

「でも戦闘ダメージは受けてもらいます。」

十代&爽児ペア LP 1200 400

「ターンエンドです。」

「へへ、楽しくなってきたぜ。なあ爽児？」

「ああ、面白い。ここら辺で一気に逆転するか。俺のターン、ドロ
ー！ー！」

ハハ顔つきが変わった。ハハ

明日香と楓はここからのデュエルは今ままでどおりには行かないことを直感で感じ取っていた。

V S 明日香&楓（前編）（後書き）

折角のヒロインをまったく活かせてない自分の文章力の低さが憎いです（泣）

さあ今回の最強カードは神聖魔導王エンディミオンです
さて効果を見てみましょうか。

効果モンスター

星7 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻2700 / 守1700

このカードは自分フィールド上に存在する

「魔法都市エンディミオン」に乗っている魔力カウンターを6つ取り除き、

自分の手札または墓地から特殊召喚する事ができる。

この方法で特殊召喚に成功した時、

自分の墓地に存在する魔法カード1枚を手札に加える。

1ターンに1度、手札から魔法カード1枚を捨てる事で、

フィールド上に存在するカード1枚を破壊する。

（遊戯王カードwikiより）

魔力カウンター6つって難しそうですが魔法都市エンディミオンでは魔力カウンターを貯めるのって大分ラクですよ。現に楓も1ターンでの召喚に成功してる訳ですし。魔法カードをサルベージする効果やカードを破壊する効果も地味に強い。だけどデッキから召喚できないのが玉に傷。おろかな埋葬で落としましょう。

今回はタグデュエルの決着を書きます。

それでは千でした。さようなら

V S 明日香&楓（後編）（前書き）

こんにちは千です。

今回は明日香&楓戦の決着をお楽しみください。

V S 明日香 & 楓 (後編)

「俺のターン、ドロー!!」

明日香 & 楓ペア LP 4000

明日香

手札 1枚

魔法・罫 2枚セット + フュージョン・ウエポン

モンスター サイバー・ブレイダー ATK 3600 (フュージョンウエポン)

楓

手札 1枚

魔法・罫 1枚セット + 魔法都市エンディミオン (魔力カウンター6つ)

モンスター 神聖魔導王エンディミオン ATK 2700 + 魔導

騎士ディフェンダー DEF 2000

十代 & 爽児ペア LP 4000

十代

手札 0枚

魔法・罫 0枚

モンスター E・HEROテンペスター ATK 2800

爽児

手札 3枚

魔法・罫 1枚セット

モンスター なし

「俺は墓地のライトエンドとダークエンドをゲームから除外する。」

「いつの間にそんなカードを墓地に？」

「楓、多分1ターン目に発動された天使の施しよ。」

「ご名答。さすが明日香だな。俺は2体のモンスターをゲームから除外しダークフレア・ドラゴンを特殊召喚する。」

ダークフレア・ドラゴン ATK 2400

「俺はダークフレアの効果を発動！手札のアックス・ドラゴニユートとデッキのエクリプス・ワイバーンを墓地に送る。そして俺の墓地のストロング・ウィンド・ドラゴンをゲームから除外。さらにエクリプス・ワイバーンの効果発動！このモンスターが墓地に送られたときデッキから光属性または闇属性のレベル7以上のドラゴン族モンスターをゲームから除外する。俺はダークストーム・ドラゴンをゲームから除外！」

次々とモンスターが墓地に行ったり除外されていく。

「さらに俺は天よりの宝札を発動。全てのプレイヤーは手札が6枚になるようにドローする。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 6 7

「想像以上にやるわね」

「この状況で最強の手札増強カード・・・」

「やっぱり最高だぜ、爽児は」

上から明日香、楓、十代だ。それぞれカードを6枚になるようにドロウする。

「俺は罨カードバーストブレスを発動。ダークフレアを墓地に送り、そのモンスターの攻撃力以下の守備力のモンスターを全て破壊する！！」

ダークフレア・ドラゴンが放った業火が明日香と楓のモンスターを襲う。

「私は魔導騎士ディフェンダーの効果を発動します。このモンスターの魔力カウンターを取り除くことで魔法使い族モンスターの破壊を防ぎます。さらに魔法都市エンディミオンの効果を発動。自分フィールド上に存在する魔力カウンターを取り除いて自分のカードの効果を発動する場合、代わりにこのカードに乗っている魔力カウンターを取り除く事ができます。魔法都市エンディミオンの魔力カウンターを2つ取り除きエンディミオンとディフェンダーの破壊を無効にします。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 7 5

「俺はトラップ・ブースターを発動。手札を1枚捨て、このターン1度だけ手札から罨カードを発動できる。俺は墓地のダークフレア・ドラゴンと今捨てたフェルグラント・ドラゴンをゲームから除外し

てライトパルサー・ドラゴンを特殊召喚。」

ライトパルサー・ドラゴン ATK 2500

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 5 6

「俺は手札から罨異次元からの帰還を発動。ライフを半分払いゲムから除外されているモンスターを可能な限り特殊召喚する。来い、
ダークエンド、ダークブレイズ、ダークストーム!!!!!!」

十代&爽児ペア LP 400 200

ダークエンド・ドラゴン ATK 2600

ダークブレイズ・ドラゴン ATK 2400

ダークストーム・ドラゴン ATK 2700

爽児のフィールドに4体の竜が並ぶ。

「さらにダークストーム・ドラゴンを再度召喚して永続魔法一族の
結束を発動。ダークストームの効果発動。自分フィールド上に表側
表示で存在する魔法・罨カードを1枚墓地に送ることによってフィールド
上の魔法・罨を全て破壊する。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 6 7

明日香のフィールドのドゥールパッセと攻撃の無力化、楓のフィ

ールドの漆黒のパワーストーンが破壊される。

「くっ、魔法都市エンディミオンの効果発動です。魔力カウンターを1つ取り除くことでこのカードの破壊を防ぎます。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 7 6

「ダークエンドの効果発動。このモンスターの攻撃力を500ポイント下げ相手モンスター1体を墓地に送る。俺が選択するのは魔導騎士デイフェンダー！墓地に送る効果だからデイフェンダーの効果は使用できないぜ、ダーク・イヴァポレイション！！」

ダークエンド・ドラゴン ATK 2600 2100

魔導騎士デイフェンダーが闇に吞まれて消える。

「バトル、テンペスターで神聖魔導王エンディミオンを攻撃、カオステンペスト！！」

「きゃっ！！」

明日香&楓ペア LP 4000 3900

「これで終わりだあ！！ダークブレイズとライトパルサーでダイレクトアタック、ダーク・バーニング、ホーリー・ブレス！！」

オリジナルの攻撃名を叫ぶのって恥ずかしいな・・・

「「きゃあぁ」「」

「「「よっしやあぁ」」」

.....

今俺達は女子寮から帰ってる途中だ。

翔は約束どおり返してもらったし明日香のことだから翔のことを先生にばらしたりしないだろう

それに多分俺と同じこの世界にはいないはずのイレギュラーとも会ったしな。かなり強かったな。それに大分かわいかったし。葉月楓、覚えとくか。

.....

ぼ

「ちよつと楓、楓・・・楓つてばー!!」

「はっ、はい。なんでしようっ?」

「あなた十代たちが帰ってきてからずっとその調子よ。大丈夫?」

「ちよつと考え事してただけ、へへへ・・・」

「そう・・・ならいいけど・・・先生が来るまでに早く戻りましょう。」

「うん、分かった。」

黒鉄爽児君かぁ。彼も私と同じ転生者かな。確かアニメではいなかっただよね。

すっごい強かったな。またいつか相手してもらえるかな？

それにかっこよかった・・・ポツ

V S 明日香 & 楓 (後編) (後書き)

今回の最強カードは・・・異次元からの帰還！

効果は・・・

通常罠(制限カード)

ライフポイントを半分払って発動する。

ゲームから除外されている自分のモンスターを

可能な限り自分フィールド上に特殊召喚する。

エンドフェイズ時、この効果で特殊召喚した全てのモンスターはゲームから除外される。

(遊戯王カードwikiより)

ライフポイントを半分つてのはとんでもない数値ですが裏を返せばデュエル終盤で残りライフがわずかでも発動できるともいえます。除外を多用するデッキの切り札ですね。エンドフェイズに除外されるのでそのターンで勝負えを決めましょう。似た効果の禁止カード次元融合はエンドフェイズに除外されない分、固定されたライフを払わなければいけない上相手モンスターも帰還します。しかしそれでも魔法カードならではの速攻性があるので一長一短の関係です。

今回は月1テスト。波乱の実技試験。オリキャラも出す予定です。

それではさようなら

VS恵（前編）（前書き）

こんにちは〜千です。

今回はヒロインの恋のライバルが出現！楓と壮絶なデュエルを繰り
広げる・・・予定です。

どうぞお楽しみ下さい。

V S 恵（前編）

『問1 プレイヤーAの青眼の白龍とプレイヤーBのバスター・プレイヤーが戦闘を行った。戦闘に勝利するのはどちらで戦闘ダメージはどのプレイヤーにどれだけ与えられるか答える。』

今俺達は月1試験を受けてる最中だ。

『問2 次のうちブラック・マジシャンの専用サポートカードではないものを答える。』

- 1 . 黒・魔・導
- 2 . 千本ナイフ
- 3 . 熟練の黒魔術師
- 4 . デイメンション・マジック』

遊戯王好きの俺にとってはこんなもの余裕な訳で・・・

『問3 炎の剣士の融合素材を答える』

満点確実だ。

こんな感じの問題が50問ほどあって俺は試験時間の4分の1すら使わず終わったが、周りの生徒は机に突っ伏したり、必死に頭ひねって考えたり、諦めて呆けてる奴とかいろいろだ。

「・・・それでは筆記試験は終了だ。試験官がテストを回収するまで待機だ。尚11時から実技テストがあるので準備しておくように・・・枚数確認を終了したので解散。」

生徒達はそれぞれ友達のところに行って「できた〜?」とか「死んだ〜」とか「来月は頑張ろう」とか言っていて、ここらへんは普通の高校生なんだなっと思感する爽児であった。

「ねえ、爽児君。テストどうだった？」

ここにいる葉月楓もその一人。あの偽ラブレター事件以来俺らは結構仲良くなつて頻繁にお互いの部屋でデュエルしたりしゃべったりとしている。最もその間の視線（特に男子の）が痛い……。ほら、今も殺気が俺に……

「ん、まあできたと思うぜ。そういう楓はどうなんだ？」

「え、私？私は全然だったよ。あ、そういえば問2の答えって千本ナイフだったりする？」

「残念、問2はディメンション・マジックだ。あれはブラック・マジシャンだけじゃなくてどんな魔法使い族モンスターにも使えるカードだ。」

「うう〜今回のテストやばいなあ。」

楓が泣きそうな顔になってる。やばい、励ましてあげないと。

「安心しろって。来月もテストはあるんだから頑張ればいいじゃん。それに実技もあるしな。お前なら実技でいい点取れるって。」

「ほ、本当？」

よし成功。

「ああお前ならできるって。それに前俺があげたカードあるだろ。あれを使えば余裕余裕。あとちょっとで実技始まるから見に行こう

ぜ。」

「うん」

「俺はE・HEROフェザーマンでダイレクトアタックだ！」

「くそおおおお！！！」

万丈目 LP 10000

「さすが十代、相変わらずのチートドロいな・・・」

今俺は楓と一緒にデュエルの見物をしてる。

「すごいな十代君。あの万丈目君を倒しちゃった。」

「まあ十代は強いからな。」

『次はデュエル場3で葉月楓さんと一条恵さんのデュエルを行います。両者は至急デュエル場3に来るように、繰り返します次は・・・』

「お、楓出番だな。がんばれよ。」

「う、うん。頑張る。」

そういつて楓はデュエル場に走っていった。

「さてと応援に行くか」

「よろしくね葉月さん。」

「は、はい。よろしくお願ひします。」

「ふふ、緊張してるわね。私はこのデュエル絶対に勝たないといけないの。悪いけどあなたには負けてもらつわ。」

「「決闘」」

楓 LP 4000

恵 LP 4000

「先攻は貰います。ドロ。私は魔導騎士ディフェンダーを守備表示で召喚します。」

魔導騎士ディフェンダー DEF 2000

「カードを2枚セットし、ターンエンドです。」

「私のターン、ドロ。私は因幡之白兔を召喚。」

因幡之白兔 ATK 700

「このモンスターは相手に直接攻撃することができる。行け、因幡之白兔プレイヤーに直接攻撃。」

「きゃっ!！」

楓 LP 4000 3300

「私はバトルフェイズを終了し暗黒の扉を発動。このカードが発動されている限り、お互い1ターンに1度しか攻撃宣言を行えない。カードを2枚セットしターン終了。このときスピリットモンスターである因幡之白兔は手札に戻るわ。」

そっつい終わると因幡之白兔が光に包まれ恵の下に戻る。

「くっ、私のターン、ドロ。私は召喚僧サモンプリーストを守備表示で召喚します。」

召喚僧サモンプリースト DEF 1600

「サモンプリーストとの効果を発動します。手札の魔法カードを1枚墓地に送りデッキからレベル4のモンスターを特殊召喚します。」

サモンプリーストが怪しげな呪文を唱える。

「私が選ぶのはクルセイダー・オブ・エンディミオン。」

クルセイダー・オブ・エンディミオン ATK 1900

「サモンプリーストの効果で召喚したモンスターはこのターン攻撃できません。けど私はディフェンダーの表示形式を変更します。」

魔導騎士ディフェンダー ATK 1600

「私はディフェンダーで恵さんにダイレクトアタック。」

魔導騎士ディフェンダーが手に持つ短剣で恵を切りつける。

「ぐっ」

恵 LP 4000 2400

「ターンエンドです。」

「私のターン、ドロー。私は阿修羅を召喚するわ。」

阿修羅 ATK 1700

「強欲な壺を発動してカードを2枚ドロー。八尺勾玉を装備。このカードは装備モンスターが手札に戻ること破壊されるとき手札に戻すことができる。そして装備モンスターが破壊したモンスターの攻撃力分のライフを回復する。そして阿修羅は相手の全てのモンスターの攻撃を400ポイントあげて貫通効果を付与する。」

阿修羅 ATK 1700 2100

「バトル、まずはディフェンダーに攻撃、地獄の千手剣!!!」

「くっ、ディフェンダーの効果で破壊を防ぎます。」

「だけど戦闘ダメージは受けてもらっわ。」

楓 LP 3300 2800

「次はサモンプリーストよ。」

「クッ・・・」

楓 LP 2800 2300

恵 LP 2400 3200

「最後にエンディミオンね。」

「くっ・・・」

楓 LP 2300 2100

恵 LP 3200 5100

一気にライフの差が3000ポイントも・・・大丈夫かな。ㇿ

不安げになる楓に対し・・・

「よし、勝ってる・・・確実に押してる。このままいつてこの女を倒せば、爽児様は私のものに・・・」

こっちは熱く燃えていた。そう、恵は爽児のことが好きだった。恵

は爽児ファンクラブの副会長で爽児への愛なら誰にも引けをとらない（自称）と語るほどだ。自身の容姿も明らかにかわいい、の部類に入るしスタイルもいい。

「私こそが爽児様にふさわしいのに、この娘は・・・」

しかし最近爽児と楓はよく一緒にいるのを見かける。周りには二人が付き合いだしたと言う人もいる。

「観客席には爽児様がいる。このデュエルに勝って爽児様に振り向いてもらう！！」

と熱い信念を持ってこのデュエルに望んでいる訳だ。勿論当の本人はそんなことまったく知らないのだが。

VS恵(前編)(後書き)

今回の最強カードは阿修羅!!

いつもどおり効果から行きますか。

スピリットモンスター

星4 / 光属性 / 天使族 / 攻1700 / 守1200

このカードは特殊召喚できない。

召喚・リバースしたターンのエンドフェイズ時に持ち主の手札に戻る。

このカードは相手フィールド上に存在する

全てのモンスターに1回ずつ攻撃をする事ができる。

(遊戯王カードwikiより)

スピリットモンスターの特徴としてエンドフェイズに手札に戻るデメリットがあるけど全体攻撃は非常に強力。相手にリクルーターや弱小トークンを潰しまくりましょう。光属性なのでオネストの恩恵も受けれるし、ビッグバン・シュートを用いたら大ダメージ確定な強力カードでした。

今回はVS恵戦の決着です。

それではさようなら

V S 恵（後編）（前書き）

こんにちは千です。

今回は恵との決着、そして小説初のオリカ登場です。

それではお楽しみ下さい。

V S 恵（後編）

「私はターンエンド、エンドフェイズに阿修羅と八尺勾玉は手札に戻るわ。」

勝ち誇った表情で恵はターン終了を宣言する。

恵

LP 5100

手札3枚

魔法・罨 2枚セット+暗黒の扉

モンスター なし

楓

LP 2100

手札2枚

魔法・罨 2枚セット

モンスター 魔導騎士ディフェンダー ATK 1600

「今恵さんの手札は阿修羅、八尺勾玉、因幡之白兔の3枚。ディフェンダーにはもう魔力カウンターが残っていないし攻撃表示なら阿修羅に倒されてライフを回復されるし守備表示に変えたとしても因幡之白兔が直接攻撃をしてくる。どうすれば……」

「あなたのターンよ、早くドロして。」

「……あ、はいスイマセン。私のターン、ドロ。」

「何を考えてたのかしら。要注意ね。」

「私は強欲な壺を発動してカードを2枚ドロウします。」

「こ、このカードは爽児君がくれたカード。よし、これで逆転してみせる。」

「私はマジカル・コンダクターを攻撃表示で召喚します。」

マジカル・コンダクター ATK 1700

「見たことないカード・・・」

「さらに私はテラ・フォーミングを発動します。デッキから魔法都市エンディミオンをサーチします。そしてマジカル・コンダクターの効果を発動します。お互いが魔法カードを発動するたびにこのカードに魔力カウンターを2つのせます。」

マジカル・コンダクター

魔力カウンター 0 2

「そして魔法都市エンディミオンを発動。更なるカウンターをコンダクターにのせます。」

マジカル・コンダクター

魔力カウンター 2 4

「私は魔法カードおろかな埋葬を発動し、デッキから神聖魔道王エンディミオンを墓地に送ります。そして新たなカウンターをのせます。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 0 1

マジカル・コンダクター
魔力カウンター 4 6

「そして私は罨カード漆黒のパワーストーンを発動します。このカードに魔力カウンターを3つのせます。そしてこのカードの魔力カウンターを1個取り除くことでマジカルコンダクターにカウンターを一つのせます。」

漆黒のパワーストーン
魔力カウンター 0 3 2

マジカル・コンダクター
魔力カウンター 6 7

「マジカル・コンダクターの効果が発動します。1ターンに1度このモンスターの魔力カウンターお全て取り除き、取り除いた魔力カウンターの数と同じレベルの魔法使い族モンスターを墓地から蘇生します。来て、神聖魔導王エンディミオン!!!」

マジカル・コンダクター
魔力カウンター 7 0

神聖魔導王エンディミオン ATK 2700

「エンディミオンの効果を発動します。手札の二重召喚を墓地に送り恵さんの暗黒の門を破壊します。」

エンディミオンが放った魔力が暗黒の門を粉碎する。

「だけど私は威嚇する咆哮を発動するわ。このターンあなたは攻撃宣言することができない。」

「ターンエンドです。」

「まさか1ターンでここまでモンスターを展開するなんて・・・だげど負けないわ。」

「私のターン、ドロー。私は命削りの宝札でカードを5枚ドロー。私は阿修羅を召喚して八尺勾玉を装備。」

「このとき魔力カウンターがのります。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 1 2

マジカル・コンダクター

魔力カウンター 0 2

「そしてディフェンダーを攻撃。地獄の千手剣！」

「クッ。」

楓 LP 2100 2000

「八尺勾玉の効果でライフを回復。」

恵 LP 5100 6700

「さらにマジカル・コンダクターを攻撃、その瞬間に収縮を発動しマジカル・コンダクターの攻守を半分にするわ。」

「魔力カウンターがのります」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 2 3

マジカル・コンダクター

魔力カウンター 2 4

「構わないわ、地獄の千手剣！」

マジカル・コンダクター ATK 1700 850

「ぎゃ・・・」

楓 LP 2000 1150

「そしてライフを回復。」

恵 LP 6700 8400

「魔法都市エンディミオンの効果を発動します。魔力カウンターが乗っているカードが破壊された場合、破壊されたカードに乗っていた魔力カウンターと同じ数の魔力カウンターをこのカードに置くことができます。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 3 7

「バトルフェイズを終了するわ。メインフェイズ2に強制転移を発動。私の阿修羅とあなたのエンディミオンのコントロールを入れ替えるわ。」

そう言い終わるとエンディミオンが恵の場に、阿修羅が楓の場に現われる。

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 7 8

「私はターンを終了する。このとき阿修羅と八尺勾玉は私の手札に戻ってくる。」

「くっ、私のターン、ドロー……」

「どうしよ、恵さんのライフは8000を越えちゃったし私のエンディミオンは奪われちゃった。私のデッキにはモンスター除去カードは少ないし2700以上の攻撃力のモンスターだっていない。」

楓はチラッと観客席を見してみる。そこには応援の三沢、十代、そして爽児がいた。

「すごいな、完全なコントロール奪取だ。それにただでさえ場持ちが悪くて使いにくいスピリットモンスターをあんなに巧みに使いま

わすとは。」

「まったく同感だ。」

「あのデュエリストすげえな。」

上から爽児、三沢、十代だ。今は楓の応援をしてる。

「正直楓は圧倒的に不利だな。ライフ差が開きすぎてる上に切り札を奪われてるからな。さてここからどうやって逆転するかな？」

「ここが正念場だぞ、楓。頑張れよ!!」

俺は立ち上がって大声で叫んだ。十代がニヤニヤしてるが気にしない……

「ここが正念場だぞ、楓。頑張れよ!!」

「そつだ、私には応援してくれる人がいるんだ。諦めてちゃだめ、頑張らなきゃって、あれ？恵さんがすごい怒ってる。」

「ぐぬぬぬぬ……悔しい!!折角勝ってるのに爽児様に振り向いてもらえない上に、負けてるこの娘に応援ですって??うらやましすぎますわ。」

「私は天よりの宝札を発動しカードを6枚になるようにドローしま

す。このとき魔法都市エンディミオンに更なるカウンターをのせま
す。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 8 9

「・・・恵さん、このデュエル私の勝ちです。」

堂々と勝利宣言する楓。

「・・・」

「私のセットカードはドレイン・シールド。勝てるものなら勝って
みなさい。」

「私は早すぎた埋葬を発動します。ライフを800ポイント払い墓
地のマジカル・コンダクターを蘇生します。ついでに魔法都市エン
ディミオンにもカウンターがのります。」

楓 LP 1150 350

マジカル・コンダクター ATK 1700

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 9 10

「また、魔力カウンター。そんなに貯めてどうするつもり？」

「こつするつもりです。私はメガトン魔導キャノンを発動します。
魔法都市エンディミオンの魔力カウンターを10個取り除き相手フ

「イールド上のカードを全て破壊します。」

「な、何？」

魔法都市エンディミオンの魔力カウンターが一斉に砲台から発射され、恵のフィールドのカードを襲う。

「魔力カウンターをのせます。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 0 1

マジカル・コンダクター

魔力カウンター 0 2

「私は魔力掌握を発動します。魔法都市エンディミオンにカウンターをのせて新たな魔力掌握をサーチします。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 1 3

マジカルコンダクター

魔力カウンター 2 4

「さらに漆黒のパワーストーンをエンディミオンに移します。」

漆黒のパワーストーン

魔力カウンター 2 1

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 3 4

「私は手札から天使の施しを発動します。カードを3枚ドロシー2枚捨てます。そして魔力カウンターをのせます。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター 4 5

マジカル・コンダクター
魔力カウンター 4 6

「そしてわたしは2体目のクルセイダー・オブ・エンディミオンを召喚します。これですべてそろいました。」

クルセイダー・オブ・エンディミオン ATK 1900

すごいスピードでカウンターをのせていく楓に観客は言葉が出なかった。

「私は魔法都市エンディミオンの効果を発動します。1ターンに1度、自分フィールド上に存在する魔力カウンターを取り除いて自分のカードの効果を発動する場合、代わりにこのカードに乗っている魔力カウンターを取り除く事ができます。私はエンディミオンにのつてるカウンターを全て取り除き墓地から魔法の操り人形を召喚します。」

魔法の操り人形 ATK 2000

「そして私は畏カード魔力集結を発動します。このカードは自分フ

フィールド上の魔力カウンターをのせることができるカードを1枚選択し、選択したカードにのってる魔力カウンター以外の魔力カウンターを全て取り除きます。そのあと選択したカードに取り除いた魔力カウンターの数と同じ数魔力カウンターを洗濯したカードにのせます。私が選ぶのは魔法都市エンディミオン！！」

フィールドの全ての魔力カウンターが魔法都市に集まっていく。

マジカル・コンダクター

魔力カウンター 6 0

漆黒のパワーストーン

魔力カウンター 1 0

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 0 7

漆黒のパワーストーンは破壊される。

「私は魔法都市エンディミオンにのってる魔力カウンターを6つ取り除き墓地から神聖魔導王エンディミオンを特殊召喚します。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 7 1

神聖魔導王エンディミオン ATK 2700

楓のフィールドに4体の魔法使いが並ぶ。

「この効果でエンディミオンを特殊召喚した場合墓地の魔法カード

を1枚手札に加えます。私は二重召喚を手札に加え、発動します。
クルセイダー・オブ・エンディミオンを再度召喚！効果モンスター
となったクルセイダーの効果で魔法都市エンディミオンに魔力カウ
ンターをのせ、このモンスターの攻撃力を600ポイントアップし
ます」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター 1 3

マジカル・コンダクター

魔力カウンター 0 2

魔法の操り人形

魔力カウンター 0 1

クルセイダー・オブ・エンディミオン ATK 1900 2500

「全員で一斉攻撃、マジック・ブラスト!!!」

「ぎゃあああ」

恵 LP 8400 0

V S 恵（後編）（後書き）

今回の最強カードは・・・マジカル・コンダクター！！
この話で楓のデッキを回したキーカードですね。
まずは効果から

効果モンスター

星4 / 地属性 / 魔法使い族 / 攻1700 / 守1400

自分または相手が魔法カードを発動する度に、

このカードに魔力カウンターを2つ置く。

このカードに乗っている魔力カウンターを任意の個数取り除く事で、
取り除いた数と同じレベルの魔法使い族モンスター1体を、
手札または自分の墓地から特殊召喚する。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

（遊戯王カードwikiより）

簡単に言うとこのカードにのってる魔力カウンターを対象のレベル
分取り除いて手札及び墓地から魔法使い族モンスターを蘇生すると
いう強力なカードです。勿論魔法都市エンディミオンで肩代わりも
可能ですし、魔力カウンターを使うデッキならどれでも入ります。

今回は爽児の実技を書きます。果たして爽児の相手とは・・・？

さようなら

VS三沢（前編）（前書き）

こんにちは、千です。

もうタイトルでネタバレになってるけど爽見の対戦相手は三沢です。
彼の新しいデッキを披露します。

それではごっご。

V S 三沢（前編）

「よくやったな楓！」

「えへへ、ありがとう爽児君。爽児君のおかげだよ。」

楓のデュエルが終わり、楓の相手は悔しそうに帰っていった。どうやら俺の応援（？）は楓に届いてたらしく、大きな助けになったらしい。

「爽児君も頑張ってたね。」

「ああ任せろ！」

といっても俺の相手はちょっと厳しいんだけどな・・・

『次はデュエル場12で三沢大地君と黒鉄爽児君のデュエルを行います。両者は至急デュエル場12に来るように。』

さっきアナウンスがあったばかりだ。

「じゃあ楓行ってくる。」

「うん、私も後で応援に行くよ。」

「まさかこんな形で受験の日の約束が叶うとはな。」

今俺は三沢と対峙してる。

「三沢、俺対策のデッキはできたのか？」

「ああ、俺の第7のデッキでお前を倒してみせる。」

ちなみにアニメでの第7のデッキは十代対策だったけどあれはノース校とのデュエルの代表決定戦だから月1試験の方が時間軸的に早い。だから十代対策は第8のデッキになるんだな。

「「決闘」」

三沢 LP 4000

爽児 LP 4000

「俺のターン、ドロ！俺はオキシゲドンを攻撃表示で召喚。」

三沢のフィールドに青緑色の竜が現われる。一応恐竜族だぞ、こいつ・・・

オキシゲドン ATK 1800

「オキシゲドンってことはウォーター・ドラゴンデッキってことか？」

「俺はカードを1枚セットしてターン終了だ。」

「俺のターン、ドロー。来い、ゴーレム・ドラゴン」

ゴーレム・ドラゴン DEF 2000

「カードを2枚セットしてターンエンドだ。」

「さて、どうくる？」

「俺のターン、俺は魔法カード二重召喚を発動する。このターン俺は二回通常召喚が可能となる。俺はハイドロゲドンとプロミネンス・ドラゴンを召喚。」

ハイドロゲドン ATK 1600

プロミネンス・ドラゴン ATK 1500

「俺は魔法カードエクスペリジョン・エクスペリメントを発動する。フィールドのハイドロゲドン、オキシゲドン、炎属性炎族モンスターを生贄にささげ手札、デッキ、墓地からファイヤー・ドラゴンを特殊召喚する。」

ファイヤー・ドラゴン ATK 2800

「見たことないモンスターだな・・・」

爽児はOPをあまり見ない派だったのでこのモンスターの存在を知らない。

「バトル、ファイヤー・ドラゴンでゴーレム・ドラゴンを攻撃、フレーム・パニッシャー！」

「俺は罨カードくず鉄のかかしを発動。相手モンスターの攻撃を無効にし再びこのカードをセットする。」

「く、俺はターンを終了する。」

「俺のターン、俺はランス・リンドブルムを攻撃表示で召喚。ターンエンドだ。」

ランス・リンドブルム ATK 1700

「俺のターン、ドロー、俺はこの瞬間ファイヤー・ドラゴンの効果を発動。俺は手札の炎属性・炎族モンスターを墓地に送ることで相手フィールド上にセットされた罨カードを破壊する。パイロ・ボム！！」

ファイヤー・ドラゴンが口から放った炎の玉がくず鉄のかかしを破壊する。

「バトル、俺はファイヤー・ドラゴンでゴーレム・ドラゴンを攻撃、フレイルム・パニッシャー！言い忘れてたがファイヤー・ドラゴンには貫通効果があるからな。」

「くっ、」

爽児 LP 4000 3200

「ターン終了だ。」

「なるほど貫通効果を持った高攻撃力モンスターで殴る作戦か。罨

カードを破壊する効果は結構厄介だな。俺が上級モンスターを召喚する前に終わらす気か。」

「俺のターン、ドロ―。俺は神竜アポカリプスを守備表示で召喚。」

神竜アポカリプス DEF 1500

「俺は神竜アポカリプスの効果を発動、手札を1枚捨て、墓地のゴ―レム・ドラゴンを手札に加える。そして俺はドラゴニック・タクテイクスを発動する。」

「この瞬間を待っていた。俺は畏カード虚無空間を発動、お互いはあらゆる特殊召喚ができなくなる。」

「何だと!!」

「よってドラゴニック・タクテイクスは不発となる。」

回想

三沢inn自室

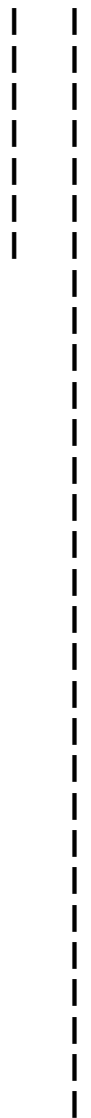
「ライトエンド・ドラゴン、ダークエンド・ドラゴン、光と闇の竜様々なモンスターを一瞬で召喚し、上級モンスターを召喚しビートダウンを行う。特に厄介なのは魔法カードドラゴニック・タクテイクスとミンゲイ・ドラゴン。前者はデッキに眠る上級モンスターを召喚する。爽児にとってドラゴン族モンスターを2体並べるのは容

易だからな。後者はいつの間にか墓地に送られ、特殊召喚ができない光と闇の竜の布石となる。さらに爽児には万能攻撃妨害のくず鉄のかかしやガード・ブロック、威嚇する咆哮など厄介な罠が多い。」

三沢は今自室で爽児対策の第7のデッキを創作している最中だ。

「王宮の弾圧でも入れるか？ だけどあのカードはライフコストを要するから実質4回しか発動できない。たった4回特殊召喚を抑えたところで爽児に勝てるか？ ならライフ回復カードを入れる・・・いやそうになるとデッキが受動的すぎる。それに罠カードの対策をしなければ。サイクロンも入れるか、いや威嚇する咆哮はフリーチェーン、無駄だ・・・ん、待てよ。このカードとこのカードなら・・・ブツブツ」

回想終了



「そう、虚無空間なら完全にライフコストなしで相手の特殊召喚を無効にできる。破壊デメリットが痛いファイヤー・ドラゴンが爽児の下級モンスターに破壊されることはない。あいつのデッキには除去カードは少ないはず。ファイヤー・ドラゴンで罠カードを破壊して貫通効果でダメージを与えていけば勝てる。俺の勝率は99%」

「ちつ、ターンエンドだ。」

「ふん、成す術がないか？ 俺のターン、ドロ。俺はファイヤー・

ドラゴンの効果で伏せカードを破壊、パイロ・ボム！」

「俺はチェーン発動で威嚇する「残念だがファイヤー・ドラゴンの効果発動に畏カードはチェーン出来ない！」・・・くそ。」

爽児の威嚇する咆哮が効果を発動する間も無く炎に包まれる。

「神竜アポカリプスに攻撃、ファイヤー・パニッシャー!!！」

「うっ・・・」

爽児 LP 3200 1900

「ターンエンドだ。俺は徹底的にお前のデッキを調べ上げた。お前に勝ち目はない!!！」

V S 三沢（前編）（後書き）

今回の最強カードはファイヤー・ドラゴン。

最強カードシリーズ初のオリカです。外見は遊戯王GXの第1OPの三沢のシーンで三沢の右にいる炎の竜だと思ってください。では効果から

効果モンスター

星8 / 炎属性 / 炎族 / 攻2800 / 守2600

このカードは通常召喚できない。

「エクスペリジョン・エクスペリメント」の効果でのみ特殊召喚することができる。1ターンに1度、手札の炎属性・炎族モンスターを墓地に送ることで相手フィールド上にセットされている魔法・罠カード1枚を破壊する事ができる。この効果の発動に対して魔法・守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「エクスペリジョン・エクスペリメント」は自分フィールド上の「オキシゲドン」、「ハイドロゲドン」と炎属性・炎族モンスターを墓地に送りファイヤー・ドラゴンを特殊召喚する魔法カードです。効果は前者はコスト付きの「神炎皇ウリア」後者は貫通効果です。この二つの効果はシナジーしてて

相手の厄介な罠を破壊 高攻撃力でダメージを与える
という動作が可能です。とても攻撃的な効果ですが「エクスペリジョン・エクスペリメント」のディスプレイバンテージが激しい上に類似召喚方法の「ウオーター・ドラゴン」と違い、たとえ破壊されても損失が取り戻せる訳ではないのでカード破壊に弱いです。

特殊召喚を封じられて成す術のない爽児、果たして逆転できるのか？

お楽しみに！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0820ba/>

もう一人の英雄

2012年1月9日00時55分発行